



Vol. 139

CONTENTS

- 【コラム】 次の10年に向けて—情報入試研究会10周年記念ステートメント— 箕 捷彦
- 【解説】 情報オリンピック女性参加者拡大への第一歩…山口 利恵
- 【解説】 第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト開催レポート—3年ぶりの対面（オンサイト）開催— 千田 栄幸



COLUMN

次の10年に向けて
—情報入試研究会10周年記念ステートメント—



情報入試研究会が設立されたのは、2012年3月3日のことであった。

2003年度には高等学校の教科として「情報」が設置されていた。この教科は、これからの情報社会で生きていく上で不可欠な情報および情報技術に関する知識・技能を学ぶために設置されたにもかかわらず、高等学校教育の中で継ぎ扱いされ、社会的にもその科目の存在さえ知られていない状況にあったし、大学入試センター試験にも含まれず、入学試験科目とする大学も片手ほどしかなかった。

情報入試研究会は、この状況を打破するべく、関係者がともに認める適正な範囲・内容・水準を持った試験問題・試験方式を構築し、もって情報教育の達成度合いを正しく評価できる体制を整備することを目的として有志で結成したものである。そこでの活動の中で得られた知見は、本会の研究会・シンポジウム・全国大会で発表し、noteに記し、会誌の記事や論文誌等の論文として残すことに努めてきた。これらはすべて情報入試研究会のWebページ^{☆1}にブログとして記録してある。

2016年までに4回の全国模擬試験を独自に企画し実施した。また、情報科担当教員の配置が進んでいないことをデータとして示したし、担当する教員の研修機会、情報科教員を目指す教職過程の学生との交流機会、中高生の情報学研究コンテストなども本会の下に設けてきた。

高大接続改革によって大学入試センター試験が大学入学者選抜共通テストに変わり思考力・判断力・表現力を問うことになった。その準備としての文部科学省委託事業「情報学的アプローチによる『情報科』大学入学者選抜における評価手法の研究開発」(2016～2018年)にも情報入試研究会のメンバが参与した。2022年度からは、高等学校の「情報」が必修の「情報Ⅰ」に一本化され、その上に選択科目「情報Ⅱ」が置かれることになった。そして、2025年からの大学入学者選抜共通テストには、「情報Ⅰ」を対象として教科「情報」が加わることが決まった。

高等学校に対する学習指導要領も2030年には改定されるであろう。その告示は2026年、そのための検討作業開始は2024年ごろが想定される。情報入試研究会の諸活動も、このことを念頭において推進していくことになる。

☆1 <https://jnsng.jp>



箕 捷彦 (情報入試研究会共同代表) (名誉会員) kakechi@waseda.jp

1968年東京大学工学部卒業。立教大学・早稲田大学・東京通信大学に勤務。早稲田大学名誉教授、東京通信大学名誉教授。情報処理技術の標準化と情報教育の推進に注力。ICPC 国際大学対抗プログラミングコンテスト、日本情報オリンピック、パソコン甲子園、U-22 プログラミングコンテストの運営/審査に参与。情報科学国際交流財団・情報オリンピック日本委員会の理事長を兼任。現在、本会の情報入試委員長。